

“街道テクテク中山道” No. 6

2018-1-21

参加者：碓貴臣、佐熊範和、黛政男、太田哲夫、後藤幸子、矢崎文彦、高野泰三郎、松下隆、染谷ミドリ、横山修一、山口健三、木村芳一

行程：吹上→熊谷 8km

吹上駅→東曜寺（いぼ地藏尊）→吹上神社（日枝神社勧請、喧嘩神輿）→中山道間の宿碑→榎戸堰→元荒川起点→権八延命地藏（白井権八）→熊谷堤（荒川の氾濫に備えた堤）→決壊の跡碑（カスリーン台風で堤防決壊、甚大な被害跡）→久下堤碑→久下神社→権八地藏→久下の渡し冠水橋跡碑（平成15年まであった）→清冽な流れの元荒川、天然記念物“ムサシトミヨ”生息（確認できず）→東竹院（久下一族の墓）→大雷（いかづち）神社（落雷稲作の守護神）→八丁の一里塚跡（日本橋より16里目、約64km）→熊谷女子高校（後藤さんの母校）→熊谷駅前居酒屋で反省会→熊谷駅

・吹上の名は、晩秋から春先にかけての北風が砂塵を巻き上げることに由来しているといふことであるが、この日は風が弱く、小春日和で快適な歩きであった。熊谷堤からの眺望は素晴らしく、河川敷には数多くの畑が見られ、また梅の花、菜の花が咲いていた。

・荒川は荒ぶる川であり、それが牙をむいたのは、1947年のカスリーン台風のとときである。洪水のために濁流が熊谷市久下で堤防を越え、堤を決壊した。その場所に熊谷堤決壊の跡碑が設けられていた。その流れ出た洪水が、利根川の堤防を決壊した濁流と合流して、埼玉県と東京都に甚大な被害を与えたという。普段は静かな荒川が荒れた結果であり、その跡碑は自然災害に対する戒めである。

・昼時に歩いていた道には食堂、コンビニは見当たらず、熊谷堤を降り、旧中山道から外れ、高崎線の線路を越え、国道17号線まで行って、ラーメン屋を見つけた。苦勞した。

・熊谷女子高校内には大きな木が数多く見られ、環境の良い空間が作られていた。正門で後藤さんの、純朴さを感じさせる後輩に全員の集合写真を撮ってもらった。

・元荒川は天然記念物が生息している程度にきれいであったが、ごみがところどころに落ちていたのが残念であった。

